

# 2020年 COVID-19感染拡大による病院経営の影響調査



2020年7月  
VHJ研究会

問合せ

〒102-0074  
東京都千代田区九段南2-2-3九段プラザビル5A  
Tel: 03-6261-2441  
E-mail: [info@vhj.jp](mailto:info@vhj.jp)  
担当: 松本義幸

このたび、VHJ研究会はCOVID-19感染拡大による4月、5月の病院経営への影響状況を把握することを目的に会員病院に対し調査を実施。

対象病院数：31 回答病院数：29（病床数217～1166、平均550）

調査期間：6月17日～7月3日 インターネットで調査票を配布、回収

## 結果概要

○全体として本年は昨年に比べ収入より費用が上回り赤字である。（3頁参照）

○要因として、入院患者数、手術件数、救急患者受入件数の大幅な減少（7頁参照）

外来患者数の大幅な減少（6頁参照）があげられる。

○その結果、入院収入、外来収入ともに減少。5月は4月よりさらに減少（4頁参照）

○さらにCOVID-19感染患者を受け入れている病院（19）の医業収支率は受け入れていない病院（10）より2.0ポイントから3.3ポイント悪化（8頁参照）。

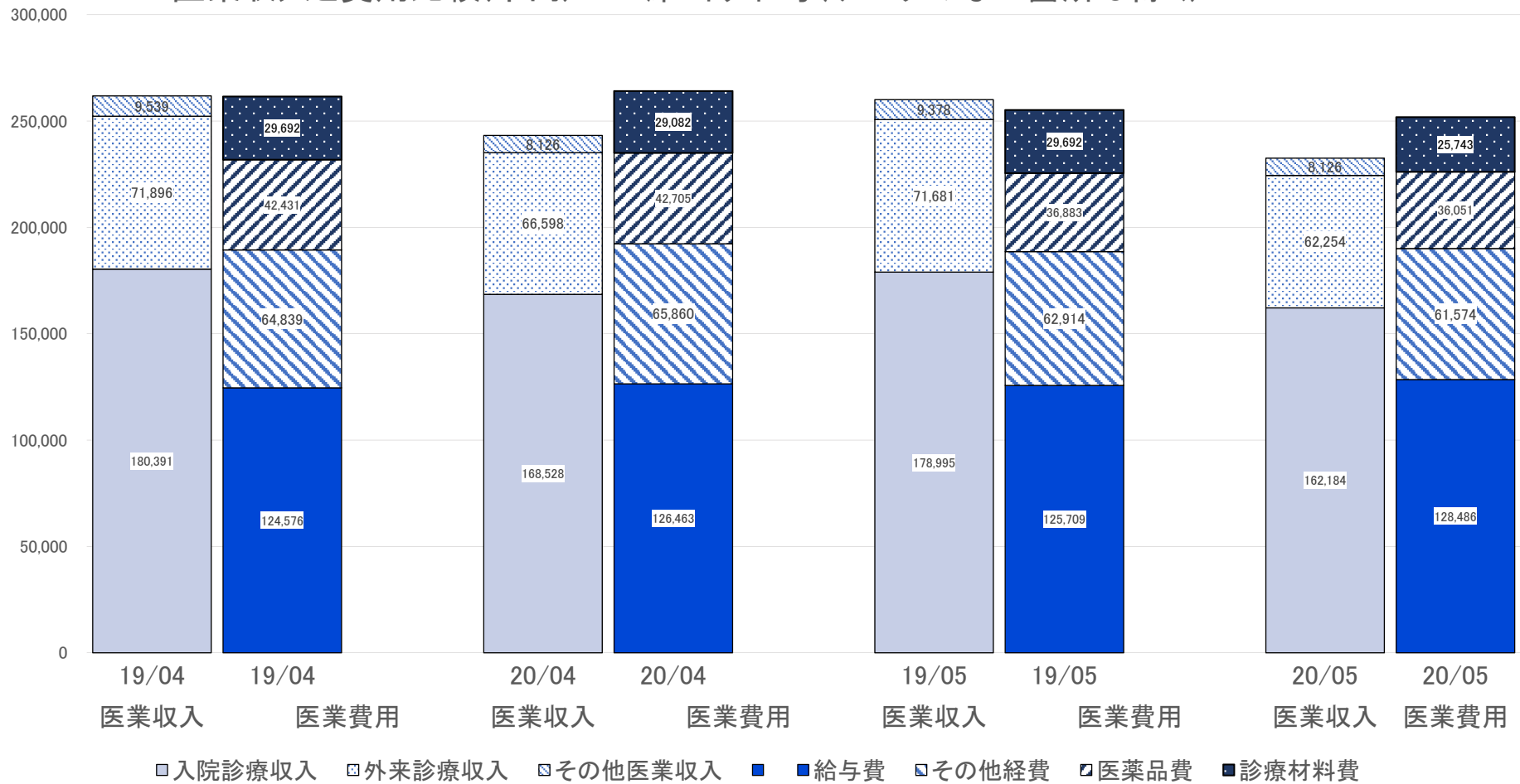
## 結論

以上のことからCOVID-19感染拡大により4月より5月と病院経営がさらに厳しい状況におかれていることが明らかになった。

VHJ研究会は、国民のQOL向上の使命感を携えた地域医療の中核を担う民間病院が、「質の高い医療は公的病院や大学病院が担うべき」との認識に対する危機感を共有し、1993年に発足。医療の質向上や病院経営等の分野で、会員機関それぞれの持つ優れた点を自院の業務に活かす自主的な活動を展開している。

当研究会は急性期機能を有した地域中核病院が主体となっていることから、COVID-19感染拡大でも29病院中19病院が患者を受け入れている。

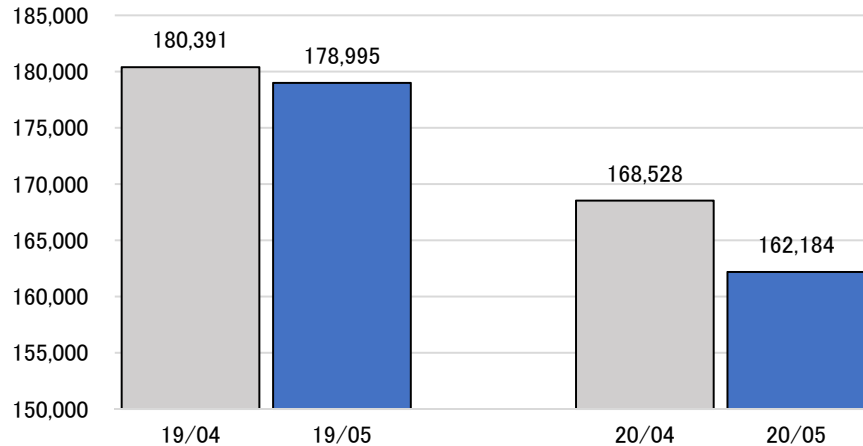
## 医業収入と費用比較(千円)-100床当り平均(データの無い箇所は除く)



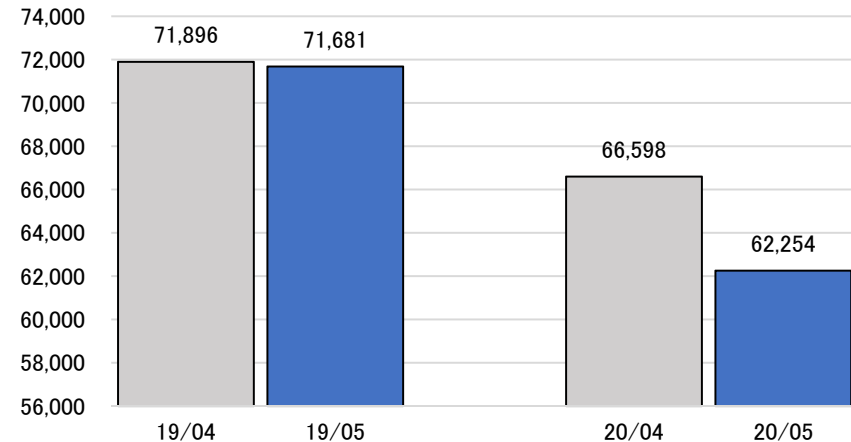
医業収入と費用を比較すると2020年の4月、5月とも収入より費用が上回っている。

前年同時期は収入が費用を上回っている事と比べると対照的である。

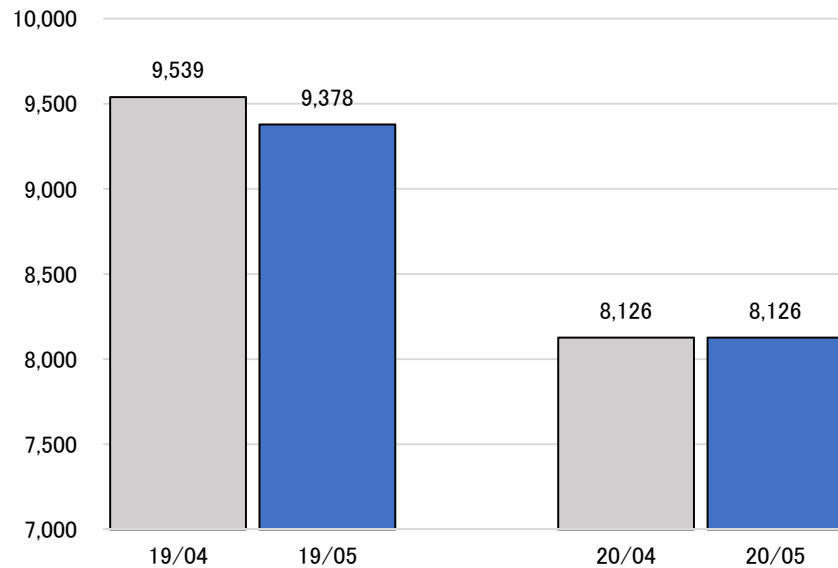
# 収入 前年同月比較



入院診療収入(千円)-100床当り平均(データのない箇所は除く)



外来診療収入(千円)-100床当り平均(データのない箇所は除く)



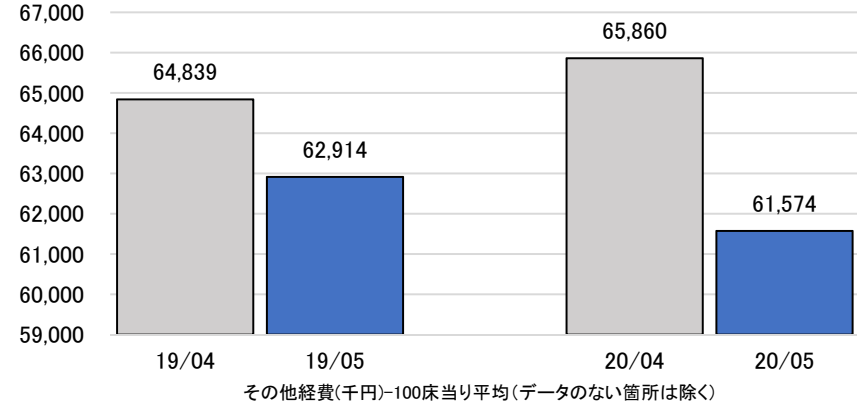
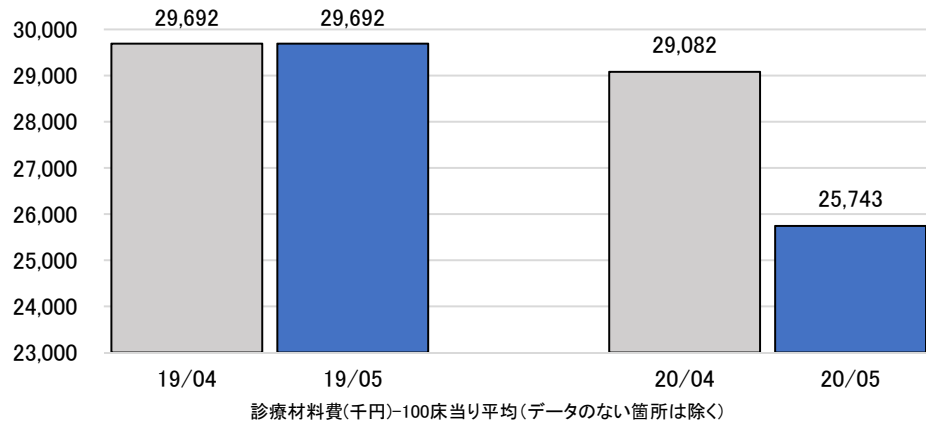
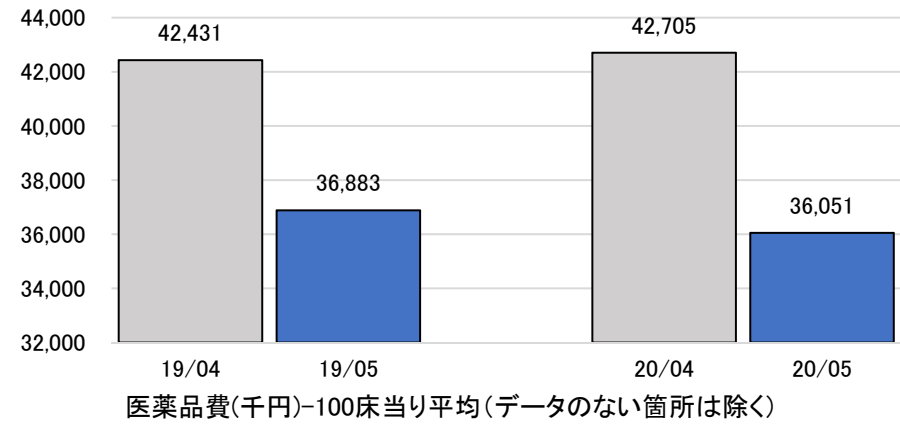
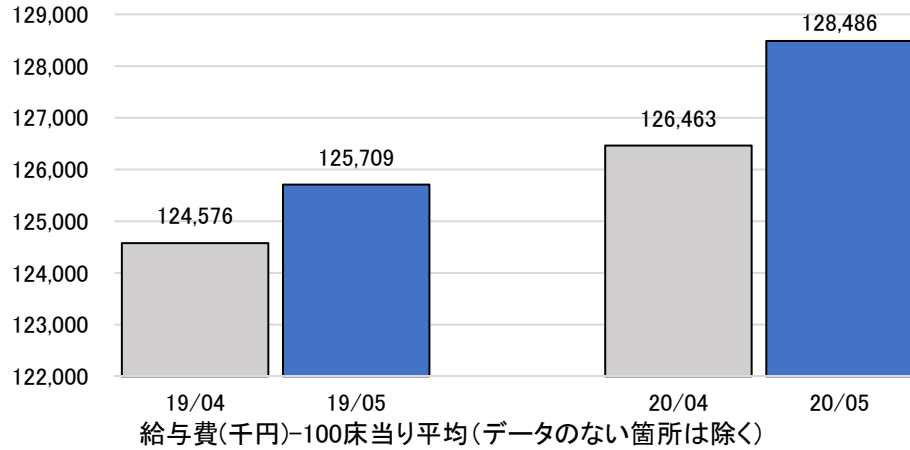
その他医業収入(千円)-100床当り平均(データのない箇所は除く)

入院収入の前年同月で比較すると4月が6.6%減少、5月は9.4%減少。また、本年4月から5月にかけて3.8%減少。

外来収入も前年同月で比較すると4月が7.4%減少、5月は13.2%減少。また、本年4月から5月にかけて6.5%減少。

健診等のその他の収入でも前年同月で比較すると4月14.8%、5月13.4%減少。

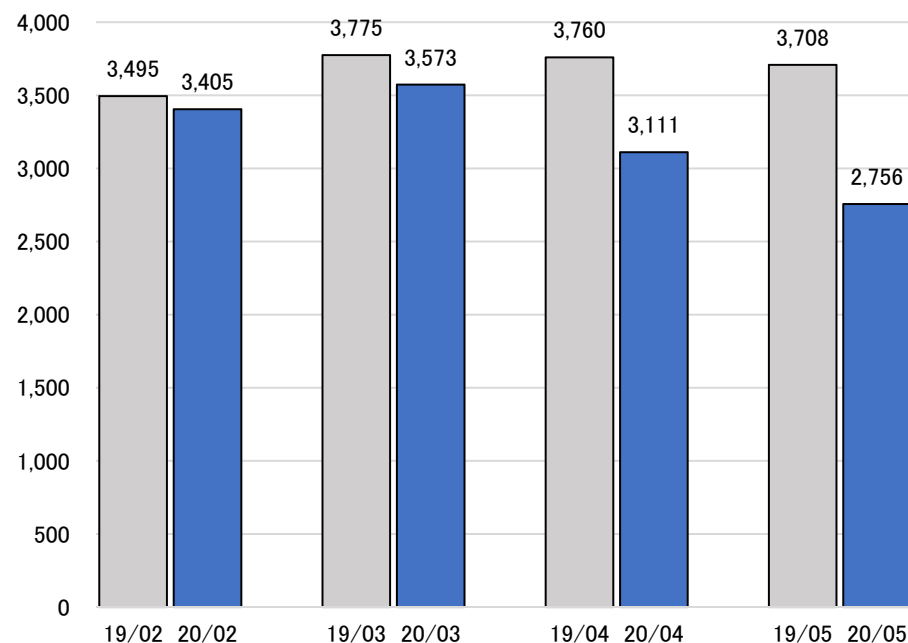
# 費用 前年同月比較



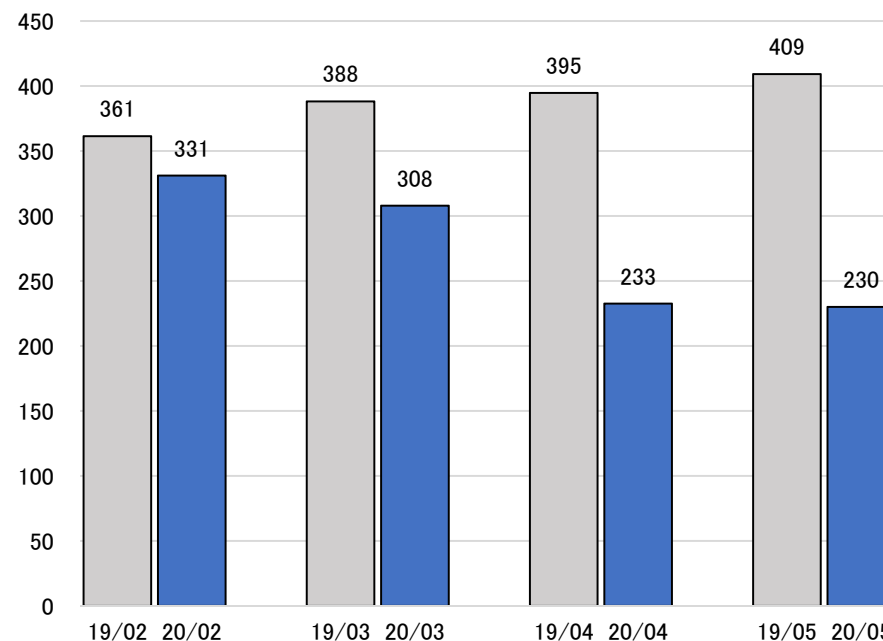
費用について前年同月で比較すると  
 給与費は4月が1.5%、5月が2.2%とそれぞれ増加。  
 4月から5月にかけて増加率を見てみると2019年が0.9%増であったのに対し  
 2020年は1.6%増である。

医薬品費は5月は2.3%減少。本年4月、5月の変化をみると15.6%減少。  
 診療材料は4月2.1%減、5月13.3%減少。本年4月から5月の変化を見ると  
 11.5%減少している。

# 外来患者統計 前年同月比較



外来患者延数-平均の100床あたり(データのない箇所は除く)



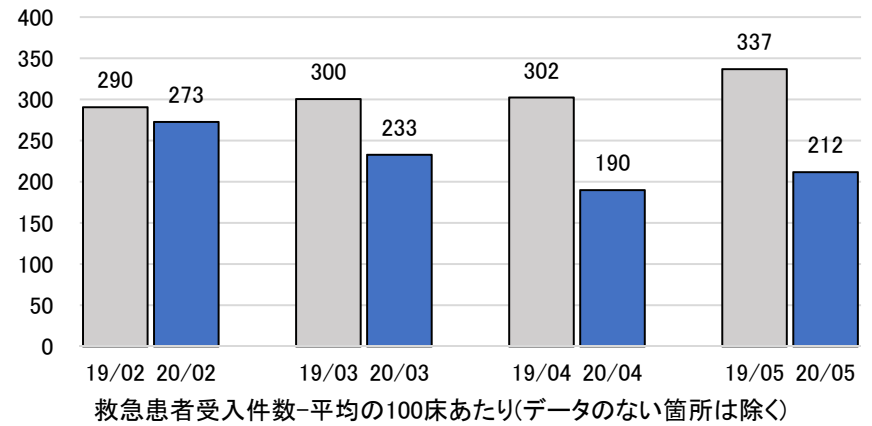
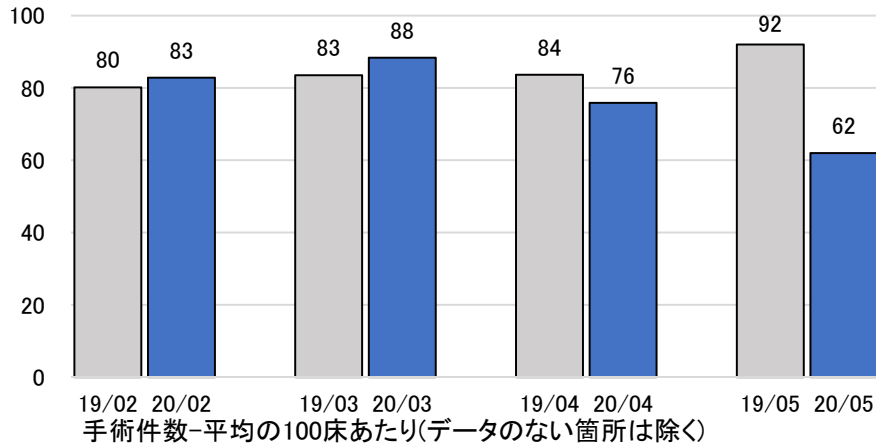
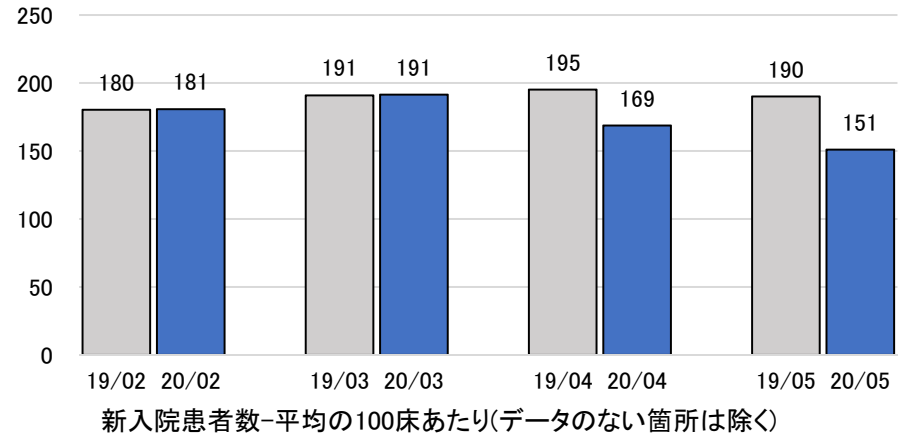
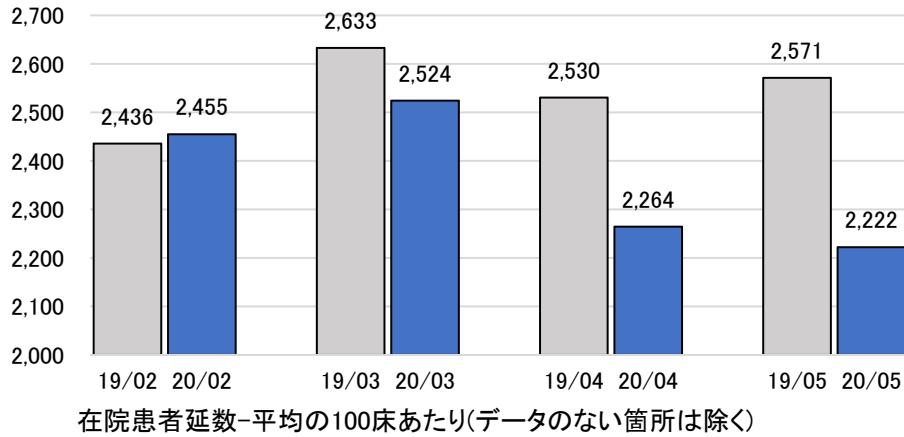
初診患者数-平均の100床あたり(データのない箇所は除く)

外来患者数は2月から5月まで調査。

外来患者延数は前年同月でいずれの月も減少しているが特に4月17.3%減少、5月は25.7%と大きく減少。

初診患者数も前年同月で減少しており、2月で8.4%減、3月20.6%減、4月41.0%減、5月43.8%減と大きく減少。

# 入院統計 前年同月比較



入院に関するデータも2月から5月まで調査。

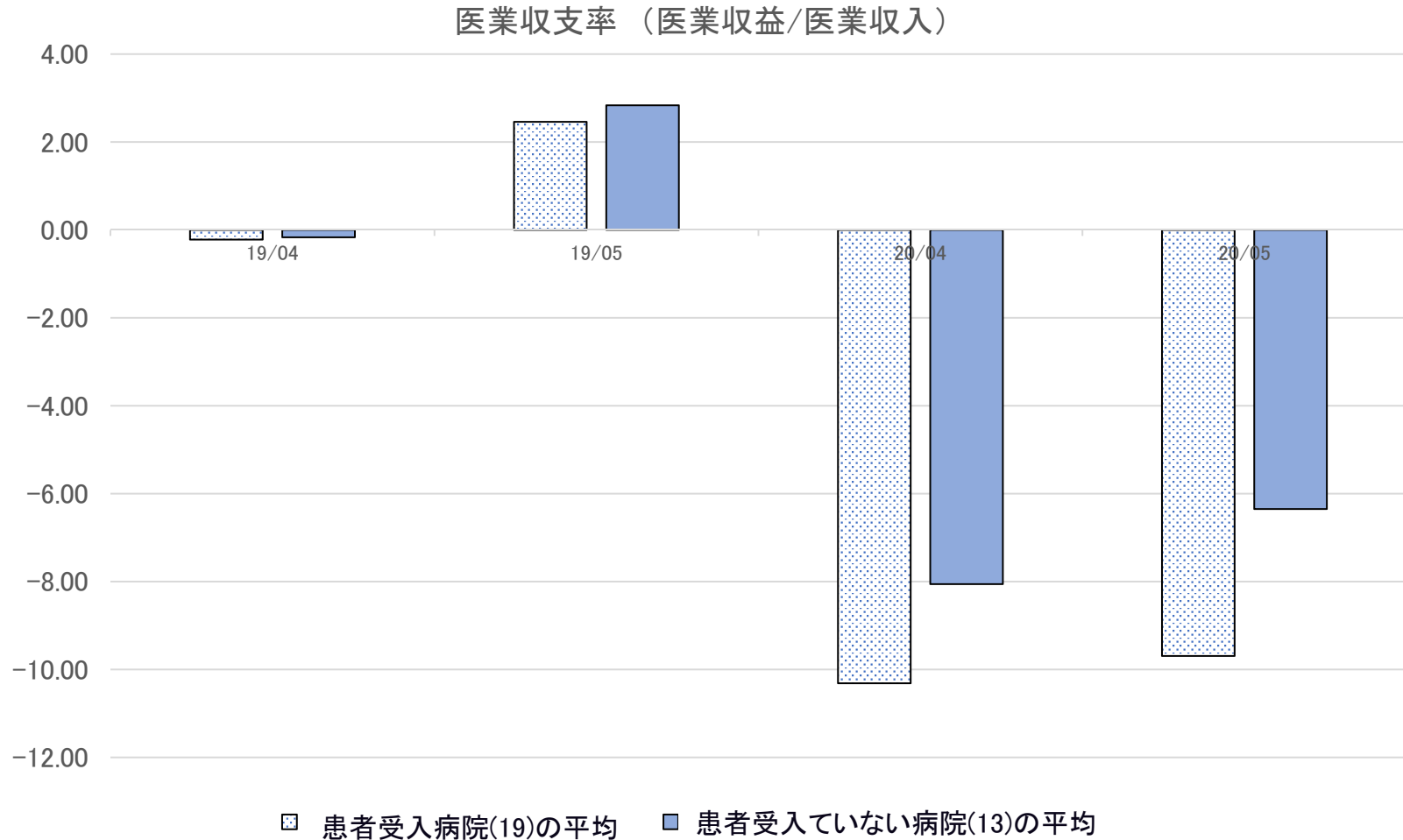
在院患者延数は前年同月で3月、4.2%減、4月、10.5%減、5月、13.6%と減少幅が大きくなっている。

新入院患者数は4月から減少が始まり4月、13.3%減、5月、20.5%と大きく減少。

手術件数は3月までは前年同月比で増加していたが4月、9.6%減、5月、32.6%減と大きく減少。

救急患者受入件数は2月から減り始め2月、5.9%減、3月22.3%減、4月、5月それぞれ37.1%減と大きく落ち込んでいる。





調査回答の29病院中19病院がCOVID-19感染患者を受け入れている。医業収支率（医業収益／医業収入）は昨年と比べ全て大きくマイナスになっている。とりわけ受入病院と受け入れていない病院の医業収支率はそうでない病院と比べて2.0ポイントから3.3ポイント悪化している。

## 調査回答病院

手稻溪仁会病院	田中 繁道	北摂総合病院	木野 昌也
北斗病院	鎌田 一	淀川キリスト教病院	石田 武
日鋼記念病院	柳谷 晶仁	北野病院	吉村 長久
竹田総合病院	竹田 秀	ツカザキ病院	塚崎 高志
恵寿総合病院	神野 正博	津山中央病院	藤木 茂篤
日立総合病院	渡辺 泰徳	倉敷中央病院	山形 専
相澤病院	相澤 孝夫	H I T O病院	石川 賀代
河北総合病院	河北 博文	近森病院	近森 正幸
亀田総合病院	亀田 信介	大分中村病院	中村 太郎
木沢記念病院	山田 實紘	飯塚病院	麻生 泰
松波総合病院	松波 和寿	聖マリア病院	井手 義雄
総合病院 聖隷浜松病院	岡 俊明	今村総合病院	今村 英仁
トヨタ記念病院	岩瀬 三紀	浦添総合病院	福本 泰三
洛和会音羽病院	矢野 一郎	豊見城中央病院	新崎 修
京都岡本記念病院	岡本 豊洋		